

120 周年を越えて その先へ

尾崎裕美子 (東京 YWCA 代表理事)

『日本 YWCA100 年史』を読んでいると、どこからか「大丈夫ですよ」という声が聞こえたような気がしました。空耳でしょうか。

新しい年を迎えました。昨年は東京 YWCA 創立 120 周年そして、敗戦、広島・長崎の被爆から 80 年の節目の年でした。YWCA の歴史を振り返ってみると、世界 YWCA の先駆けとなった英国 YWCA が発足した 1885 年はクリミア戦争、1905 年の日本の YWCA 創設の頃は日露戦争、敗戦後の混乱・復興期を経て、120 周年の中間地点である 60 周年に当たる 1965 年はベトナム戦争と、その時々 of 社会的背景には常に戦争の影があったことがわかります。そして 2025 年、ウクライナとロシア、パレスチナとイスラエル、ミャンマーでは今も戦闘が続いており、多くの命が奪われています。まるで過去、現在、未来が暴力の鎖でつながれているような気がしませんか。

イギリスの歴史学者 E.H.カーは、「歴史とは、現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話である。」と言っていますが、歴史をどうとらえるかは、まさに今のあり方、未来への向き合い方が問われることなのでしょう。私たちは、歴史から何を学ぶべきかと思わずにはられません。

『日本 YWCA100 年史』の編纂に関わられた渡辺峯さんは「編集で一番大事にしたのは、戦中からの YWCA の責任のところですよ。ここを真正面から見つめないといけない。」と言っておられました。YWCA は、先の戦争の中、活動が丸ごと戦時体制にからめとられ、侵略戦争に抵抗することなく、キリスト教団体としての本質を歪めていきました。団体の存続のために妥協した部分も見られます。こうして結果として戦争に協力してしまったのです。当時の人たちの置かれた状況と苦悩を思う時、時代が異なるとはいえ、同じようなことが起きた時に私たちはどこに立つのか、どう行動するのか、まさに現在が問われている、と感じます。

YWCA は、その反省に立って、二度と戦争を起こさせないために平和憲法を守り、平和を求めて働く女性団体として戦後の歩みを始めました。1970 年からは、『核』否定の思想に立つを掲げ、自他ともに平和団体であることを標榜し、行動してきました。平和を、いのちが大切にされ、

すべての人が安らかにその人らしく生きることができる状態と捉えた時に、東京 YWCA の様々な活動・事業はどれもが平和を実現する道につながるとの確信をもって。

さて、YWCA は、ボランティアである会員が主体的に会の運営に関わっているボランティア団体ですが、ボランティア活動を支える精神的な理念としてボランティアリズムがあります。そのボランティアリズムの概念は大きく分けて二つあると言います。(阿部志郎 1980)

一つは、「voluntarism」これは、自発性・自主性・自由意思を表します。通常は、この意味でイメージされることが多いのではないのでしょうか。それに対して、もう一つは、「voluntaryism」これには、国家権力との関係における独立性、市民運動性、独立した民間の立場といった意味があります。この考え方は、教会が国家から自由であることに由来しているそうです。日本ではこの y の付くボランティアリズムが弱いと言われています。

言い換えれば、「voluntarism」は主権者である私たち一人ひとりが自発性、自主性をもって自分の頭で考え、行動すること。そして「voluntaryism」は組織として国家や行政権から自立した自由な立場で、それと協働し、場合によっては、国家権力を恐れずに批判し、抵抗していくこと、提言していくこと―「おかしいと思うことには NO を言うていくこと」です。この二つがあってこそ、真のボランティアリズムであることを心に留めておきたいと思えます。これはまさに、YWCA の立脚点でもあります。

100 周年に続いての、特にこの 10 年は、コロナ禍を経て、これまでの常識が通用しない、予測不能なことが重なった年月でした。世界規模で不安が渦巻き、つながりあった問題が見えにくくされている今、私たちはさらに大きな課題に直面しています。2024 年の日本被団協のノーベル平和賞受賞に力を得て、「核なき世界」への願いと行動が世代を超えた広がりを見せている一方で、国内では原発再稼働が進み、憲法改悪への手続きが具体化されようとしています。これらの動きを注視すると共に、私たちの抵抗のボランティアリズムを大いに発揮しなければなりません。

これまで、いくつもの転換点を祈りつつ決断して乗り越えてきた YWCA の先輩たちのことを思います。あの時聞こえた「大丈夫ですよ」の声は、先輩たちからのエールだったのかもしれない。

歴史という宝に学びつつ、ともに進んでゆきましょう。120 年目のその先へ。